

事業所名		ふらっと				支援プログラム（保育所等訪問支援）		作成日		2025 年		9 月		1 日	
法人（事業所）理念		ニューロダイバーシティーの概念に則り、それぞれの子供の神経多様性を認めながらも、社会生活を生き抜く力を身に付けてもらうべく、エビデンスのある認知行動療法に基づいた支援を提供する。支援の対象はもとより、そのご家庭、学校、など社会全体に対しても働きかけて共生社会の実現を目指す。													
支援方針		子どもが保育や教育等の集団生活の場で安全に、安心して過ごしながら、日常生活や社会生活を円滑に営めるよう、1人1人の発達上のニーズに合わせながら子どもをエンパワメントする支援をベースとする。家族、訪問先施設の意向を踏まえ、フィードバックを行いながら子どもが利用している保育や教育等の集団生活の場における環境等を整えることを通じて、対象児だけでなく、保育所等全体が共に成長できるよう支援していく。対象児の集団生活の様子を観察し、施設職員に支援方法の提案を行う「間接支援」、訪問支援員が保育・教育の中に入り、職員と一緒に支援を行う「直接支援」、施設のスペースを借りて訪問支援員が対象児に1：1で療育を行う「個別支援」のいずれかの方法で支援を提供する。													
営業時間		月曜		9 時		0 分から		18 時		0 分まで		送迎実施の有無		なし	
		支 援 内 容													
本人支援	健康・生活	・活動の流れを、絵や文字を使って提示し、開始～終了までの活動ルーチンを形成する。 ・疲れ、眠気など自分の体のサインを知って、休む・大人に伝えるなど必要な対処が取れるよう支援する。 ・整理整頓、準備や片付け、衣服の着脱など身の回りのことを自分で行えるようにスモールステップで行動形成する。													
	運動・感覚	・粗大運動により、ボディイメージの獲得や身体全体の使い方を育む。 ・座位保持のための体幹形成（バランスボール、トランポリンなど）を行う。 ・感覚統合あそびにより、平衡感覚や固有感覚の弱さによる生活上のつまずきを和らげる。 ・指先の感覚を養う微細運動（箸つかみ、紐通しなど）で手先の巧緻性（器用さ）を高める。 ・感覚の偏りに対するツール利用など環境調整支援を行う。 ・ビジョントレーニングにより、視覚機能を高める。													
	認知・行動	・機能分析や強化子の利用で、困った行動を減らし、代替行動の獲得を目指す。 ・場面の切り替えにくさやこだわりについて、行動調整できるよう支援する。 ・アンガーマネジメントを教え、気持ちのコントロールができるよう支援する。													
	言語 コミュニケーション	・感覚的な遊びから、ごっこ遊びや創作遊びへと興味関心を広げ、他者とイメージを共有する経験を積み重ねる。 ・興味に合わせた遊びを提供し、やり取りを通して語彙力を高め、自身のイメージや思いを他者に伝えられるよう支援する。 ・言葉が獲得しにくい場合の指差し、ジェスチャー、絵カードなど非言語ツールによる伝達支援を行う。													
	人間関係 社会性	・ふれあい遊び、親子遊びを通して、身近な人との愛着・信頼関係形成を図る。 ・ブロック、電車などの玩具を用いた大人と1対1の関わりから開始し、同年代の小集団の関わり、ルールのあるカードゲームやボードゲームに移行し、遊びの中で友達の認識と他者の理解、ルールの理解を伝える。													
家族支援		定期的な保護者面談により、支援内容の見える化に努める。児童発達支援事業所に通所する保護者と合同で保護者交流会を行う。								移行支援		・就園・就学先や医療機関、他の通所先との情報共有 ・環境変化に向けての課題提示および実践			
地域支援・地域連携		地域コミュニティと繋がれるよう助言を行う。必要に応じて医療を紹介、情報提供を行う。								職員の質の向上		・法定研修（コンプライアンス、虐待防止、ハラスメント防止等） ・スキルアップのための研修 ・外部研修への参加 ・ケース検討会等			
主な行事等		保育所等における発達支援のため、行事は行わない													